

日刊 動労千葉

85. 12. 20
No. 2122

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二七二〇七



第一波勝利宣言を發する中野委員長。

中野委員長の報告

家庭もちかお版
定期委報告・第2報

この会議の第一の任務は、今回の十一・二八―二九ストライキの意義を明らかにし、総括を深め全体化していくことであり、第二にスト以降追いつめられた中曾根・杉浦による反動攻勢・処分攻撃等に対して組織をあげて対決する態勢を築くことであり、第三は「第二波、第三波」に向けて、とりわけ三月ダイ改阻止闘争へ向けての闘争態勢を確立することにあります。

24時間ストをうちぬいた顔は暗れ暗れ。まっ青になって収集・回復にとびまわっている当局をしり目に、支部長先頭に勝利の団結ガンパロー！（十一月二十九日正午、千葉運転区スト集約集会）：天井にまで檄布の張られた詰所にて。

国鉄「分割・民営化」阻止ノ三里塚二期着工粉碎ノ 1.100と家族の必死の一撃が 世の中をつき動かしはじめた！さあこれからだ！

空前の弾圧―スト破りをうちやぶって、われわれは勝利した

今回のストライキは、一万人をこえる警察権力と全国から動員された九百名にもものぼる鉄道公安官・首都圏からの白腕章という異状なスト圧殺策動と真正面から対決して闘いぬかれました。さらに加えて、国労・動労「本部」のスト破り要員をも動員した必死の圧殺攻撃の中で、津田沼・千葉転を中心全組合員一丸となつてうちぬいた歴史的なストでありました。

今日の労働組合の現状の中で、これだけの重圧の中でストライキを一人の脱落者も生み出さずやれたことを、胸をはり、誇りをもつて確認したい。われわれは、初期の目的を立派に貫徹したのであります。

反動キャンペーンは「勝利の証し」―国論二分の大論戦さきりひろく―

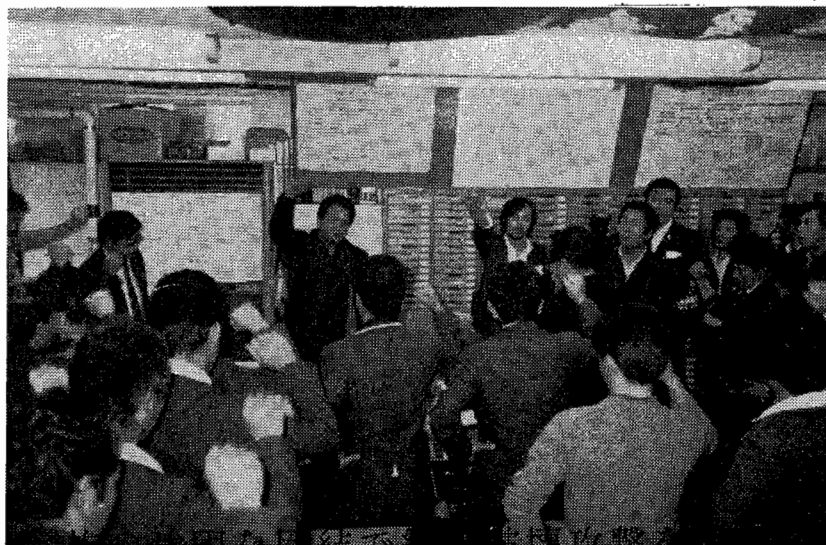
われわれは、今回のストライキで何を目的としたのか。国鉄分割・民営化の恐るべき本質を世論に問い、世論を二分することで闘いを新たに再構築することを目指したのであります。

マスコミは、動労千葉のストライキとゲリラを連動させて悪いキャンペーンをくりひろげた。しかし、これらは、われわれのストを圧殺しようとした者たちの金切り声です。だからこそ中曾根・杉浦は、われわれのストライキの直後になって、苦しまぎれに極めてベテラン的な「余剰人員対策」の閣議」まで開いてつけ焼刃的な対策をやらざるを得なかったのであります。これは、彼らがいかに焦っているかの証拠にほかなりません。

われわれは、実力によって分割・民営化を社会問題化させ、国鉄労働運動を転換させる端緒を切り拓いたのであります。

流動・決起を開始した国労の仲間たち

さらに、この闘いに共鳴する圧倒的な現場の国鉄労働者の闘いにより、国労津電分会は「スト破りはしない」という方針を決定した。そのなかで国労組合員が「スト破りは死んでもいやだ」と動労千葉に加入し、ストライキに合流した。スト参加者



は全員解雇」という極限的な恫喝の員中で、このような国鉄労働者が決起したことは限りなく大きいのであります。この事実の中に、われわれは全国鉄労働者は必ず反撃に立ちあがることを確信できるのであります。国労は今、いや応なく追いつめられております。「三ない運動」をやめ、スト破りまで強制した。国労傘下各分会の現場労働者のスト破りの苦痛を無視してやった。それでも当局は「雇用安定協約」を結ばない。当局が考えていることは、上から下まで労働組合を破壊するということなのであります。

（裏面につづく）

第一報
違法ストライキ等について

「スト参加者は全員解雇だ！」との血迷った前代未聞の脅迫・弾圧を家族ぐるみではねのけて決起したことが勝利のカギをこじ開けた。又も「不可能を可能に」してみせた。

違法ストライキ等について
国鉄千葉動力車労働組合は、分割・民営化阻止一万人の闘い等により、十一月二十九日正午、千葉運転区スト集約集会を開催した。この集会は、国鉄労働者のスト破りに対する脅迫・弾圧をこじ開けた。又も「不可能を可能に」してみせた。

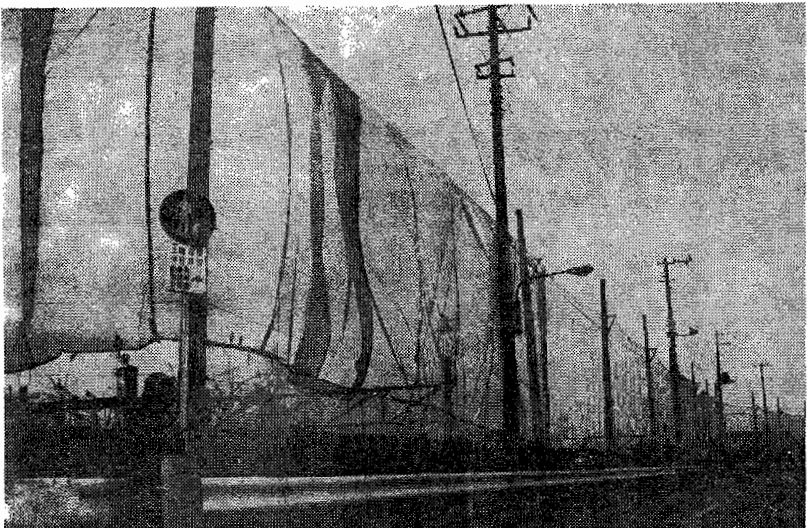
国鉄千葉動力車労働組合
千葉運転区スト集約集会
十一月二十九日正午

「ゲリラを惹起した」責任は首切りリスト破り強行の当局にある

次に、今おきている反動とどう闘うのかであります。マスコミが騒ぎ、あらゆる圧力が動労千葉にむけられている。「ゲリラ」についてはつきりさせておかなければならない事実、実は権力・当局自身の方がスト前から「ゲリラが必ず起きるから」と宣伝し、それを口実に大警備陣・大弾圧体制を以てスト圧殺を狙っていた。この間、問答無用の攻撃の数々を労働者の上に当局自身が強行してきた「身に覚えがある」からこそ、「やられるかも知れない」と考えていたのであります。にもかかわらず、やられてしまった後になってから、白黒を逆転させて「動労千葉がゲリラを惹起した」等と、自らの大失態をおしかくすために、わが組合にいわれない責任転嫁をしようとしている。こんなことは断じて許すわけにはいきません。

「ゲリラを惹起した」責任は彼らと彼らのゴリ押ししている「十万人首切り」計画そのものにあることは明らかであります。

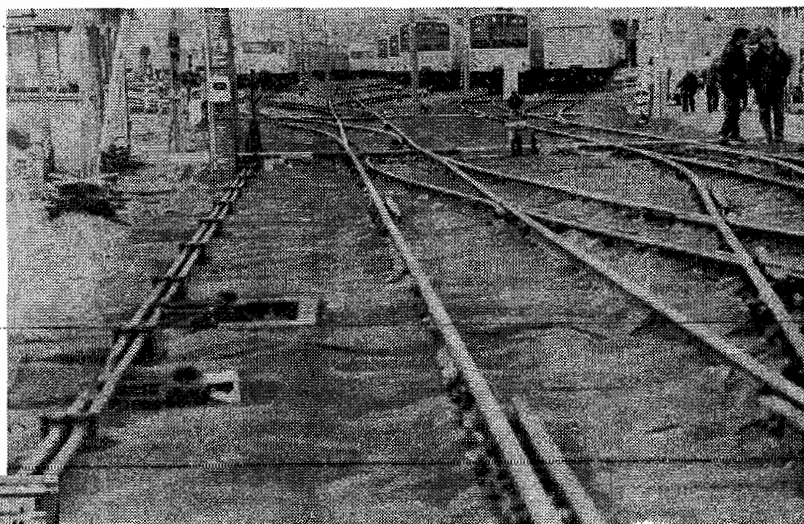
彼らは理屈ぬきの処分に訴えてくるのであります。彼らが一線をこえてやるというならば、われわれ



▲ スト拠点、高さ10mのネットでおおわれ、3,500名の機動隊が津田沼電車区を包囲・封鎖した。(11月28日、津田沼電車区)



▲ 当局が手配した「スト破り運転士」を保護するために、千鉄局のみならず本社、東京西局の「白腕」(管理職)が大量にホームを埋めた。詰所への階段は公安官が占拠した。(11月28日、津田沼駅)



▲ 「支援が構内に突入する」なる事前のデマ情報。恣意的に宣伝していた権力と当局は、組合員まるごと構内から強制排除する策謀のもとに、構内の道床をスッポリおおいつくすネットをはりめぐらした。国鉄労働運動史上に類例のない異常な弾圧準備の一例。

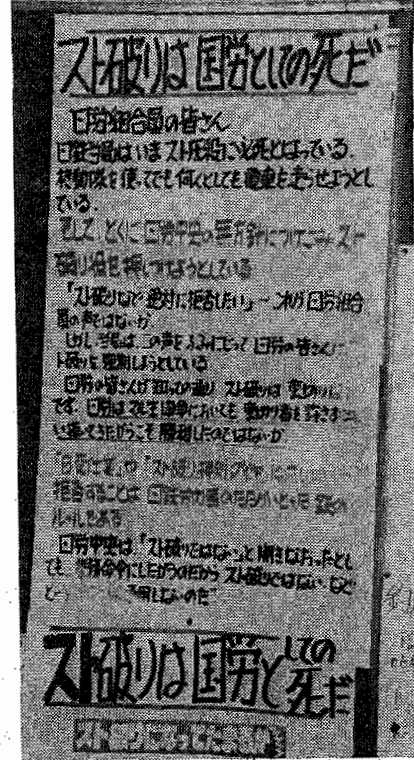
(津田沼電車区)

▼ 同じ職場で働く国労の仲間への呼びかけは大きな共感をよび、有形無形の連帯決起がかちとられた。スト破りを強要するダラ幹指導部に対して、「死んでもスト破りなんかできない！」と涙ながらに詰めよって抗議する国労組合員はついにスト第2日目には「スト破り乗務拒否」の組織決定をかちとった。

も一線をこえた処分粉砕闘争に猛然と突入する。年末年始を返上して闘いに入る。処分が今週中にも出ることを想定し、強固な意志統一をかちとりたいと思います。

スト破り指導部・協会派の敵対許すな

国労内に大きな共感・流動化が生まれると同時に、また反動も生じています。国労の「スト破り指令」は厳然たる事実であります。こうした中で協会派が「スト破り」を居直り、動労千葉のストを非難し、自らの犯した階級的犯罪行為をタナにあげて、こともあろうに「動労千葉が組織破壊をやった」と白を黒に逆転するような言いがかりをつけています。われわれは絶対に許さず、スト破りを粉砕するため徹底的に闘っていこう。



団結固く、勝利の大道を 進もう！ 第二波へ

三月のダイ改は、極めて大規模なものになるうとしています。われわれが見ぬいたとおり、当局と動労「本部」革マルの反動的ゆ着のもとで、千葉の業務移管(京葉線増分の東京移管)も三月の射程に入ったと見なければなりません。

うちぬかれた「第一波」の巨大な地平にがっちり確信をうち固め、「第二波・第三波」を見すえて、検修合理化粉砕、業務移管阻止、運転保安確立を目指し、いかなる反動・処分もはね返し、全組合員・家族が動労千葉の旗のもとに結束し、一月から三月にむかって、火の玉となって闘いぬくことを訴えます。



お知らせ

十二月二十六日(木)朝七時、第4チャンネル『ズームイン朝』で、ストを闘った動労千葉の考え方、今後の方針・展望等について、中野委員長インタビューの形で紹介・放映される予定です。